

茨城県報

昭和三十三年十二月十日
第四千三百十二号

目次

告 示

ページ

健康保険医療機関の指定	一
多賀土地区画整理施行規程の一部改正	一
多賀土地区画整理統計書の変更	二
牛の結核病検査の実施	九
昭和三十四年度茨城県農業講習所講習生募集要項	九
計量器販売等の事業登録	一〇
昭和三十二年工業統計調査員の任命	一一
建築許可に関する聴聞	一六
茨城県内水面漁場管理委員会委員の選任	一六

公 告

告 示

示

茨城県告示第千七百七十一号

健康保険法第四十三条ノ十三及び同法第四十三条ノ十三により次の保険医療機関の指定並びに保険医の登録を取消した。

昭和三十三年十二月十日

茨城県知事 友 末 洋 治

記

指定番号	保険医療機関名	登録記号番号	保険医氏名	所在地	取消年月日
勝齒九	山本齒科医院	茨齒云二	山本 一郎	勝田市武田大塚 前一〇九三	昭和三十三年 十二月二十五日

茨城県告示第千七百七十二号

昭和十七年三月六日茨城県告示第百四十三号で認可告示のあつた日立都市計画事業多賀土地区画整理施行規程の一部を次のように改正し、茨城県庁及び高萩土木事務所日立工営所に備えおき、昭和三十三年十二月十七日から十日間（午前九時から四時まで）土地所有者及び関係人の縦覧に供する。

昭和三十三年十二月十日

日立都市計画事業多賀土地区画整理

施行者 茨 城 県

右代表者 茨城県知事 友 末 洋 治

題名中「多賀都市計画」を「日立都市計画」に改める。

第一条中「内務大臣」を「建設大臣」に、「多賀都市計画土地地区画整理事業」を「日立都市計画事業多賀土地区画整理」に改める。

第二条中「多賀都市計画事業」を「日立都市計画事業」に改める。

第十三条中「整理施行ノ結果生ジタル学校敷地予定地ハ之ヲ多賀町ニ交付ス」を削る。

第十五条中「地租法」を「土地台帳法」に改める。
第十六条中「多賀町」を「日立市」に改める。

付 則

この規程は茨城県知事の認可告示があつた日から施行する。

茨城県告示第千百七十三号

昭和十七年三月六日茨城県告示第百四十三号で認可告示のあつた日立都市計画事業多賀土地区画整理設計書を次のとおり変更し、茨城県庁及び、高萩土木事務所日立工営所に備えおき、昭和三十三年十二月十七日から十日間（午前九時から午後四時まで）土地所有者及び関係人の縦覧に供する。

昭和三十三年十二月十日

日立都市計画事業多賀土地区画整理

施行者 茨 城 県

右代表者 茨城県知事 友 末 洋 治

日立都市計画事業多賀土地区画整理設計書

目 次

第一章	総 説
第二章	整理施行地の現況及び工事施行の目的
第三章	工事その他の事業の計画説明
第四章	主要工事の仕様
第五章	整理施行前後における土地の筆数地積の地目別対照表
第六章	整理施行により得べき利益
第七章	整理施行地及びこれに隣接する土地現形図
第八章	整理予定図
第九章	工事着手及び完了予定時期
第十章	事業費予算
第一章	総 説

多賀土地区画整理事業は戦時中、旧多賀町内に株式会社日立製作所多賀工場が建設され、その活潑な活動に伴い、急激かつ無統制に発展しようとする農漁村地帯を、都市の能率、保健及び防災を主眼とした統制ある理想的市街地を造成しようとして、昭和十六年十二月二十日内務省告示第六百六十一号をもつて、三百十四万坪を都市計画土地区画整理区域として決定されたのであるが、そのうち最も急速に施行を必要とする常磐線以西の二団地、百三十二万五千坪の区域を昭和十七年一月十三日に茨城県が施行命令をうけて、事業に着手し、施行してきたものである。

当時戦時下の折から土地区画整理の進捗を俟たず、将来換地交付することを条件として幹線街路の一部を新設し、またこれと併行して、住宅地建設のため地区中心部の換地指定をして区画道路の開設を急いだが間もなく終戦となり、事業も一時停頓のやむなきに至つた。

その後戦後の社会経済状態の変化に伴い、事業の再検討をなし昭和三十三年三月に施行命令の変更をうけて、都市計画土地区画整理事業区域を三十六万坪に縮少し、事業の遂行を図るものである。

第二章 整理施行地の現況及び工事施行の目的

一 整理施行地の現況

一 位 置

本地区は日立市多賀町地内の国鉄常磐線常陸多賀駅に接した同線以西の区域で、地区を南北に国道六号線が通過し、旧多賀町のはば中央部に位する。

二 区 域

施行地区の区域は次のとおりである。

日立市大久保町、多賀町、河原子町、諏訪町の各一部「別紙区域図表示のとおりに」

三 地 積

地積約一一二ヘクタール（三三九、〇〇〇坪）

四 地 勢

地勢は概ね平坦であり、東方に国鉄常磐線がある。西より東へ、緩傾斜をなし、標高は約二十八米から約五十米である。

五 気 象

恒 風 北々西

最大風速 毎秒 二六米（水戸測候所調査）

最大雨量 一時間五六耗（水戸測候所調査）

六 地 下 水

地下水は、七米乃至十米にして、水量豊富飲用に適する。

七 道 路 及 び 交 通

地区の概ね中央部を南北に走る国道六号線があり、また県道常陸太田、河原子線が南部を東西に貫通し、国鉄常陸多賀駅に接続して、交通の幹線をなしている。その他は市道で巾員一米乃至四米の道路が数本あるが、いずれも統制なく市街地道路としては極めて不便である。なお国道六号線には、水戸市から日立市に「日立電鉄バス及び茨交バス」が、また日立市内循環の「日立電鉄バス」が運行している。

八 用 排 水

地区内における幹線水路は桜川があり、地区の西部山間より東へ流れ太平洋に注ぐ。その流域は狭少にして流量は少ない。

九 土 地 の 利 用 状 況

本地区は、多賀駅前附近の一部市街地を除いて農村地帯であつたため、専業農家によつて農地として耕作されているが、日製多賀工場の出現に伴い、国道及び県道沿線に逐次住宅が建築され現在約七百戸の住宅が散在する。

一〇 公 園 及 び 緑 地

地区内に設置された公園はないが、多賀町鹿島神社は老樹繁茂し、また地区の西側に真弓山脈重疊し、附近一帯の地は自然の緑地をなし展望は絶佳である。

一一 学 校

地区の西部に日立市立大久保小学校敷地約九、〇〇〇坪、児童数一、七五五名の学校があり、なを地区外に市立多賀中学校敷地約六、〇〇〇坪が設置されている。

一二 工 事 施 行 の 目 的

理想的な工都としての市街地を造成することを目的として発足した本事業

(一)

は、当初の設計方針にもとづいて、公共施設の整備改善を行い、土地の交換分合、地目の変換、区画形質の変更等により、宅地の利用増進を計り健全な環境をもつ市街地を造成しようとするものである。

第三章 工事その他の事業の計画説明

街路及び広場

本地区内において都市計画として決定せられた街路及び広場は左のとおりである。

一 街 路

計	街 路 番 号		巾 員 延 長		広 場	摘 要
	等級	類別	「メートル」	「メートル」		
一	三	一〇二	二四	五五・四	五、四三・七〇	
二	二	一〇一	一八	三三・九		
二	二	一〇一	二四	一、三五・〇		
二	二	一〇一	一五	一九・六		
二	二	一〇三	一五	四八・五		
二	二	一〇六	一六	一一三・九		
二	三	一〇二	二三	八〇・二		
二	三	一〇六	二二	七・一		
二	三	一〇七	二二	二六・八		
二	三	一〇八	二三	二九・六		
二	三	一〇八	二二	六七・六		
二	三	一〇八	八	二六四・一		
二	三	一〇八	二	七六・九		
二	三	一一一	二	六、五三・五	五、四三・七〇	

一 区画街路及び広場左の如し

巾	員	延	長	摘	要
一六	五三〇・〇				
一二	二七七・三				
一〇	二二八・一				
九・三	一四八・四				
八	三、二九一・八				
七・八	二四四・六				
六	一一、一九八・七				
四	四、四七七・一				
計	二〇、三九六・〇				

(二) 市街化見込

昭和十六年十二月用途地域を決定し常陸多賀駅前附近一帯にわたる区域及び都市計画街路一等大路第三類第一号線沿線の一部を商業地域と定め、桜川附近より以北諏訪町に跨がる一部に軽工業の発展を予想して準工業地域とし、その他は概ね土地高燥閑雅であるので一般住宅地帯とする予定である。

(別紙参考図参照)

(三) 公園緑地

公園緑地 地区の中央部に運動と憩楽を兼ねる公園を始めとして、四ヶ所の都市公園を適当に配置しなるべく周囲に道路を配し桜川沿線には緑地帯を設けもつて市民の保健衛生休養慰安に備え、さらに防火保安上に寄与しようとするものである。その地積は次のようである。(別紙整理予定図参照)

種別	地積(坪)	地区総地積に 対する百分比	摘 要
公園	11,043.41	1	

(四) 学 校

本事業区域内包容人口約一万人の予定で学校敷地を拡張し、地積約三一、〇〇〇平方メートルを留保しようとするものである。

(五) 換地計画

原位置換地を原則とするが公園、広場、官公署用地、その他必要な土地を留保するため適宜移動換地を行なうものとする。

(六) 街廓並びに画地の標準左のとおり

	住 居 地 帯	商 業 地 帯	工 業 地 帯
街廓長辺	130メートル前後	100メートル前後	130メートル前後
街廓短辺	40メートル 乃至50メートル	40メートル前後	50メートル 乃至60メートル
画地奥行	30メートル 乃至40メートル	30メートル前後	
画地間口	12メートル 乃至15メートル	6メートル 乃至12メートル	
画地面積	200平方メートル 乃至300平方メートル	100平方メートル 乃至200平方メートル	

(七) 水 路

幹線水路は主として在来水路の拡張、一部護岸石積を施行し地区内排水に支障のないようにし管渠、コンクリート側溝及び素堀側溝を設けるものとする。

(八) そ の 他

(イ) 墓 地

墓地は現存のままとするが、換地計画の際はとくに都市美をそこなわないように留意する。

(ロ) 高圧電線

一般住宅に支障ないよう道路を配置し、高圧線下は空地とする。

第四章 主要工事の仕様

主要工事の仕様は左のとおりである。

一 都市計画街路及び区画道路

都市計画街路中、一等大路第三類第一〇一号、二等大路第一類一〇一号、二等大路第二類第一〇一号其の他主要街路については歩車道を区分し、排水の必要に応じてコンクリート側溝を設ける、区画道路は素堀側溝とし路面は総て砂利散布仕上とする。

二 水路

石積粗石護岸又は杭棚工とする。

三 橋梁

都市計画街路二等大路二類第一〇一号、一〇六号、二等大路第三類第一〇一号の桜川に架る橋梁は何れもコンクリート橋とする。

四 公園

地区内の公園は用地確保に止め施設は別途事業とする。

第五章 整理施行前後における土地の筆数地積の地目別対照表

(地目別対照表別表のとおり)

第六章 整理施行により得べき利益

地価騰貴による利益

区分	民有地地積	坪当り平均価格	総価額	摘要
整理前	二五、九六・〇三	六、六〇〇	一七六、一七、七〇〇・〇〇	
整理後	二〇〇、一五・一一	一、三三〇・〇〇	二六四、三七、四五・〇〇	
差引利益			八八、〇八、八五・〇〇	

備考 整理前民有地地積とは第一種地地積に測量増一七、一四五、四一坪を加算したものである、整理後民有地地積とは第一種地地積とする。

第七章 整理施行地及びこれに隣接する土地現形図

別紙添付

第八章 整理予定図

別紙添付

第九章 工事着手及び完了予定時期

一 工事着手 昭和十七年二月十日

二 工事完了予定 昭和三十五年三月三十一日

第十章 事業費予算

一 収入 一一三、三二九、四九一円

内 訳

区分	金額	摘要
国庫負担金(又は補助金)	四三、七四、〇〇〇	
県費	二七、六八、六六四	
市分担金	四、一五、八三七	地元市負担分
替費地処分金	八、三二、〇〇〇	
その他の	五二、〇〇〇	寄附金
合計	一二三、三九、九一二	

二 支出 一一三、三二九、四九一円

内 訳

種別	単位	事業量	事業費	摘要
都市計画街路工事費	米	六、九三・五〇	三三、七五、四六四	
区画街路工事費	米	二〇、三六・〇〇	一三、〇六、〇〇〇	

水路改修費	米	一七〇・五〇	一八、二四三
移転補償費	戸	二六〇・〇〇	一八、七八四、〇七三
測量費	坪	三七、五三・〇〇	四、八九八、九四〇
換地費	坪	三七、五三・〇〇	一〇、三六、九九九
整地費	坪	六三、七〇・〇〇	一二、四三五、〇〇〇
橋梁費	平方米	二七八・〇〇	九、一五〇、〇〇〇
工事雜費及事務費			一〇、八七四、七四
合計			一二三、三九、四九一

三年度別歳入歳出資金計画表

一 年度別収入

(イ) 年度別収入

年次	年 度	事業費	財 源					計
自一	自昭和十六年度	七九六、五〇〇	四九、〇〇〇	五二〇、〇〇〇	一四一、〇〇〇	九一、〇〇〇	五、五〇〇	七九六、五〇〇
至六	至同二十一年度							
自七	自二十二年年度	—	—	—	—	—	—	—
自一一	至二十七年年度							
一二	同二十八年度	四、五〇〇、〇〇〇	—	—	三、〇〇〇、〇〇〇	—	一、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
一三	同二十九年度	二、三七、四九七	—	—	一、五四、九八八	—	七五三、四九九	二、三七、四九七
一四	同三十年度	五、〇三五、四九四	—	—	三、三五〇、三三九	—	一、六七五、一六五	五、〇三五、四九四
一五	同三十一年度	五、四〇〇、〇〇〇	—	—	三、六〇〇、〇〇〇	—	一、八〇〇、〇〇〇	五、四〇〇、〇〇〇

(四) 替費地調書

種別	地積	坪	單價	金	額	摘	要
一六 同 三十二年度	二,100,000	—	—	—	1,337,000	100,000	二,100,000
小 計	二,100,000	—	—	—	1,337,000	100,000	二,100,000
一七 昭和三十三年度	10,000,000	—	—	—	5,000,000	—	10,000,000
一八 昭和三十四年度	10,000,000	—	—	—	5,000,000	—	10,000,000
小 計	20,000,000	—	—	—	10,000,000	—	20,000,000
合 計	22,100,000	—	—	—	11,337,000	100,000	22,100,000

二年度別支出

種別	地積	坪	單價	金	額	摘	要
既 処 分	四、六九五・〇〇	—	一九・三八	九一、〇〇〇・〇〇	—	—	—
未 処 分	三、七一八・六二	—	八二五・〇〇	三、〇六八、〇〇〇・〇〇	—	—	—
〃	一、七四五・〇三	—	八三〇・〇〇	一、四四八、〇〇〇・〇〇	—	—	—
〃	四、五七七・三五	—	八〇五・〇〇	三、六八四、〇〇〇・〇〇	—	—	—
計	一四、七三六・〇〇	—	—	八、二九一、〇〇〇・〇〇	—	—	—

年次	年 度	測 量 費	換 地 費	補 償 費	街 路 費	橋 梁 費	整 地 費	水 路 費	事 務 費	計
自 一 自 昭和十六年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
至 六 至 二十一年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自 一 自 昭和二十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
至 一 至 同 二十七年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一 二 昭和二十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一 三 同 二十九年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

一四	同	三十年度	九〇〇,〇〇〇		五二〇,〇〇〇	一、三六、四九〇					三、二七九、〇〇四	五、〇三五、四九四
一五	同	三十一年度	一、〇八四,〇〇〇			五九六,〇〇〇				二、五二一,〇〇〇	一、一八九,〇〇〇	五、四〇〇,〇〇〇
一六	同	三十二年度		一	七〇〇,〇〇〇	一、四〇〇,〇〇〇						二、一〇〇,〇〇〇
小	計		三、七九八、九四〇	一、七七一、九九八		七、六四〇、〇七三	七〇、四六四			二、五三一,〇〇〇	一八、三四三	四、四七四、七四
一七		昭和三十三年度	六二〇,〇〇〇			三、二七〇,〇〇〇	一六、三三〇,〇〇〇					八〇〇,〇〇〇
一八	同	三十四年度	一、四九〇,〇〇〇	八、六三五,〇〇〇	八、七三〇,〇〇〇	二九、七六一,〇〇〇	九一、五〇〇,〇〇〇	九八、九四〇,〇〇〇			五、六〇〇,〇〇〇	七三、三五〇,〇〇〇
小	計		二、一〇〇,〇〇〇	八、六三五,〇〇〇	二一,〇〇〇,〇〇〇	四六、〇八一,〇〇〇	九一、五〇〇,〇〇〇	九八、九四〇,〇〇〇			六、四〇〇,〇〇〇	九三、二五〇,〇〇〇
合	計		四、八九八、九四〇	一〇、三三六、九九八	一八、七四四、〇七三	四六、八五一、四六四	九一、五〇〇,〇〇〇	一三、四三五,〇〇〇	一八、三四三	一〇、八七四、七七四	一三、三三九、四九一	

表 对照地目地後施行整理画面地区土地

種 目 別	施 行 前		施 行 後		摘 要
	地積 (坪)	割合%	地積 (坪)	割合%	
公 共 用 地					
道 路	20,959.82	6.40%	73,771.68	22.52%	
公 園	—	—	11,042.41	3.37	
広 場	530.57	16	1,652.77	51	
水 路	4,478.10	1.37	3,063.55	94	
並 木 敷	845.33	26	—	—	
計	26,813.82	8.19	89,530.41	27.34	
民 宅					
第 一 宅 地					
田	13,819.00	4.22	—	—	
畑	173,076.30	52.84	—	—	
	77,135.31	23.55	200,195.11	61.12	

種地	山林	4,431.00	1.35	—	—
	原野	386.00	12	—	—
	小計	268,847.61	82.08	200,195.11	61.12
	第一號地	7,628.00	2.25	—	—
	第二號	3,805.83	1.12	15,306.17	4.68
第一種地	第三號	676.00	20	3,441.18	1.05
	第七號	1,513.74	45	2,270.61	69
	小計	13,623.57	4.16	21,017.96	6.42
合 計		282,471.18	86.24	221,213.07	67.54
國有地	公用財產	266.42	08	251.38	08
	普通財產	425.00	13	1,389.40	42
	計	691.42	21	1,640.78	50

日本電信電 國 道公社用地	400.43	12	402.00	12
有 地 計	400.43	12	402.00	12
保 留 地	—	—	14,736.00	4.50
合 計	310,376.85	91.54	327,522.26	100.00
測 量 増 減	17,145.41	5.24	—	—
總 計	327,522.26	100.00	327,522.26	100.00
減 歩 率	—	30.00	—	—

茨城県告示第千百七十四号

家畜伝染病予防法第三十一条の規定に基き左記のとおり牛の結核病検査を実施する。

昭和三十三年十二月十日

茨城県知事 友 末 洋 治

記

- 一 実施の目的 牛の結核病の発生予防
- 二 実施する区域 日立市、北茨城市、高萩市、多賀郡十王町
- 三 実施の対象となる家畜の種類及びその範囲 搾乳の用に供し又は供する目的で飼育している牝牛及び種付の用に供し又は供する目的で飼育している牝牛
- 四 実施 期 日 昭和三十三年十二月十五日から昭和三十四年二月十四日まで
- 五 実施の方法 結核病検査、ツベルクリン皮肉反応検査
- 六 その他 実施の細部については高萩家畜保健衛生所長の指示による

茨城県告示第千百七十五号

昭和三十四年度茨城県農業講習所講習生募集要項を次のとおり定める。
昭和三十三年十二月十日

茨城県知事 友 末 洋 治

茨城県農業講習所講習生募集要項

- 一 修業年限 二ケ年
- 一 募集人員 二十五名
- 一 願書受付期間 昭和三十四年二月一日から昭和三十四年三月十日まで
郵送の場合は三月十日までの消印あるものに限り受付ける
- 一 出願手続 入所志願者は、第一号様式の願書、第二号様式の履歴書に、最終学校の成績証明書、身体検査書、戸籍抄本及び本人の写真（脱帽上半身像）三ヶ月以内に撮影したものを添え三月十日までに水戸市若宮町茨城県農業講習所長あて提出すること。
- 一 受験資格 左の各号に該当するもので身体強健、志操堅実なものとす。

- 1 新制高等学校またはこれに準ずる教育機関を卒業したもの。
- 2 旧制中学校（乙種農学校を含む）卒業後一ケ年以上農業に関する試験研究教育実務または普及事業に従事したもの

一 送抜試験

- 1 期 日 三月十三日（金）

- 2 試験場 水戸市若宮町 茨城県農業講習所

科目	時間	科目	時間
文	午前十時から十一時	物理及び化学	午後一時二十分
一般	十一時十分から十二時	動物及び植物	午後二時十分
数学	十二時十分から一時	人物考査	午後二時十分
	一時十分から一時五十分		午後二時十分
	一時五十分から二時		午後二時十分
	二時十分から二時五十分		午後二時十分
	二時五十分から三時		午後二時十分

合格者発表

三月十六日午前十時

注意事項

- 1 受験に関する書類の受付時間は午前九時から午後四時までとする。
- 2 出願書類を受理したときは、本人あて受理証票を交付する。
- 3 出願書類を郵送する場合は必ず書留郵便として封筒表に「入所願書」と朱書すること。
- 4 受験者は、受験証票に記載してある受験者心得をあらかじめ承知しておき、試験当日必ず携行すること。
- 5 受験についての照会には十円切手を、願書用紙の請求には八円切手を封入しあて先を明記した返信用封筒を同封すること。

第一号様式 (用紙半紙)

入 書 願 書

このたび貴所講習生として入所したので別紙履歴書、成績証明書、身体検査書及び戸籍抄本に写真を添えてお願いいたします。

昭和三十四年 月 日

氏 名 印

茨城県農業講習所長 森 田 潔 殿

年 月 日

第二号様式 (用紙半紙)

履 歴 書

本籍地
現住地

筆頭者との続柄 氏

年 月 日生 名

一 学 業
一 職 歴

右のとおり相違ありません。

昭和三十四年 月 日

氏 名 印

茨城県告示第千七百七十六号

計量法第四十七条第一項の規定により次のとおり計量器販売等の事業を登録した。

昭和三十三年十二月十日

茨城県知事 友 末 洋 治

登録番号	登録年月日	店舗の所在地	氏名及び名称
第四六一号 昭和三十四年三月四日	昭和三十四年三月四日	土浦市大和町三、〇五番地	株式会社 西武ストアー
長さ計(ノギス、ノギス以外の副尺付はさみ尺、ブロッグゲージ及び回転尺を除く) ます(計量筒式ガソリン量器を除く)、斗概及び化学用体積計			
第二六八号 同	同	土浦市大和町三、〇五番地	株式会社 西武ストアー
はかり、分銅、おもり、力計及び織度計			
第二一七号 同	同	土浦市大和町三、〇五番地	株式会社 西武ストアー
温度計、仕事計、工率計、熱量計、流量計、粘度計、密度計、濃度計、周波数計(回転計を除く)、光度計、光東計、照度計、騒音計、屈折度計、湿度計、比重計及び耐火度計			
第四八一号 同	同	土浦市大和町三、〇五番地	株式会社 西武ストアー

公

告

◎昭和三十三年工業統計調査員の任命について

昭和三十三年十二月三日付で昭和三十三年工業統計調査員を次のとおり任命した。

昭和三十三年十二月十日

茨城県知事

友 末 洋 治

調査員
証発給
番号

調査員氏名

市町村名

調査
区番

調査員氏名

市町村名

調査
区番

1	飯村 一郎	水戸市	一	15	香取 也い	水戸市	一五
2	小泉 茂	〃	二	16	齊藤新一郎	〃	一六
3	萩野谷次男	〃	三	17	島田 節子	〃	一七
4	野上 定雄	〃	四	18	佐久間重寿	〃	一八
5	吉沢 とし	〃	五	19	笹沼 享	〃	一九
6	田中三之介	〃	六	20	寺川 勝実	〃	二〇
7	古田市太郎	〃	七	21	遠西わぐり	〃	二一
8	蓼沼 二郎	〃	八	22	都築 真邦	〃	二二
9	遠藤 震	〃	九	23	豊崎 正則	〃	二三
10	石島 愛子	〃	一〇	24	山本 弘	〃	二四
11	加藤 千代	〃	一一	25	五来 隆	〃	二五
12	白井 昂	〃	一二	26	櫻村 道貞	〃	二六
13	伊藤子之吉	〃	一三	27	市橋 庸一	〃	二七
14	大越 久子	〃	一四	28	中村 金蔵	〃	二八

29	鯉淵 尋	〃	二九	30	吉田 忠次	〃	三〇
31	伊東 康光	〃	三一	32	福田 英彦	〃	三二
33	関 周	〃	三三	34	谷本 季	〃	三四
35	市毛 和男	〃	三五	36	町井 安友	〃	三六
37	寺門 颯享	〃	三七	38	三村 和夫	〃	三八
39	鬼沢 宗重	〃	三九	40	和田新五郎	〃	四〇
41	佳谷喜久丸	〃	四一	42	岩田 長生	日立市	一
43	小沢 政男	〃	二	44	寺門 四郎	〃	三
45	大江熊太郎	〃	四	46	沼田 晴	〃	五
47	水庭 寅松	〃	六	48	水庭 鉄次	〃	七
49	石嶋 晃	〃	八	50	大和田 弘	〃	九

51	滑川 勝男	〃	一〇	52	篠崎 亀吉	〃	一一
53	鈴木 一郎	〃	一二	54	小島 光男	〃	一三
55	小島 文男	〃	一四	56	佐藤不二子	〃	一五
57	菅井 正	〃	一六	58	菊池 寛	〃	一七
59	梅原 昭也	〃	一八	60	森田 茂	〃	一九
61	島崎 寿雄	〃	二〇	62	江尻 昌男	〃	二一
63	鯨岡 誠	〃	二二	64	黒沢 俊一	〃	二三
65	大森 茂美	〃	二四	66	大窪 武	〃	二五
67	黒沢 茂男	〃	二六	68	鴨志田和一	〃	二七
69	鈴木平五郎	〃	二八	70	渡辺 順	〃	二九
71	山形 三郎	〃	三〇	72	額賀 絹枝	〃	三一

94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73
沢田善太郎	伊藤幸雄	北河政勝	吉田幸太郎	佐野馨	鈴木秀雄	岡田芳齊	藤代武司	横山豊助	岡野義久	矢島秀隆	小林実	小松英一	佐藤敬	酒卷正次	柳沢太一	高原正一	島田和夫	本橋寅一郎	黒沢一郎	白石巖	大内りつ子
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	土浦市	〃	〃	〃
一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	三四	三三	三二
116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95
久貫恒路	相良精一	田中善雄	名田秀喜	小久保勝世	綾部熊吉	佐取茂	松下治四郎	丸山武志	齊藤晃一	川島惣次	中島通知	坪野謙二	岡野幸次郎	倉持肇	小倉三夫	後藤金一	中根清一	宮島好	土金秀勝	根本清	名和長恵
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	古河市	〃	〃	〃	〃	〃
一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二四	二三	二二	二一	二〇
138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117
荒川紀代	中野忠蔵	金子和平	森田富三	植田勝司	久米菊雄	惣野代稔	高橋美智雄	佐野正吾	友常和夫	金子順蔵	大山美智子	井坂恵久	幕内彦四郎	中島義一	友水忠	長塚寛爾	野口広	山本富男	樋口虎次	杉山信雄	野口正雄
〃	下館市	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	石岡市	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二	一	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二三	二二	二一	二〇	一九	一八
160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139
宮田重吉	平塚真一	岡本智好	清水利意	角田覚次郎	神長玉寿	広瀬恒三郎	渡辺真	赤羽宏之	長岡宗一	坂井英厚	須藤淳	上野秀雄	瀬端光男	森田忠季	秋山恒	羽田忠義	杉山昭三	鈴木権次郎	池羽清	栗崎美佐雄	川久保正次
〃	〃	〃	〃	〃	結城市	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
六	五	四	三	二	一	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三

182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	193	162	161
根本兵七郎	瀬谷 威	山崎 真三	中村 慎三	木村 雅美	上野 三郎	小名木 正	石引 伸	大宮 信雄	山中久一郎	大島 宗平	宮田 国雄	杉田 周平	瀬戸井俊雄	石島 弘	増山 政吉	宮田 秀吉	柳川 要	岸野啓一郎	大塚 義成	坂本 信夫	大沢 美充
〃	那珂湊市	〃	〃	〃	〃	〃	〃	竜ヶ崎市	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二	一	七	六	五	四	三	二	一	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七

204	203	202	201	200	199	198	197	195	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183
清水亀四郎	門井 ふし	高橋 末吉	古谷 研	染谷 静男	吉岡与四郎	堀越 茂三	坂野真次郎	三宅 正文	横島 良市	倉持守三郎	篠崎千枝子	黒沢 繁	大塚 綾子	沢部 健次	鈴木フサエ	飛田 一男	染谷 健一	青野 一郎	重藤 忠雄	小池和一郎	大谷 長良
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	水海道市	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	下妻市	〃	〃	〃	〃	〃	〃
八	七	六	五	四	三	二	一	八	七	六	五	四	三	二	一	八	七	六	五	四	三

226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205
佐藤 寛	木村 進	金沢 和夫	住谷 富藏	西野 とみ	飛田 弘子	川崎 誠	武石彌衛門	木村 陽	檜山磨古刀	磯野佐太雄	和田 由栄	鈴木 亨	西野 黄衛	鈴裏健次郎	鈴木 豊治	鈴木 得三	井上 平	片岡 章	富岡 収	舟橋 義男	大滝 溶
〃	〃	〃	高萩市	〃	〃	〃	〃	勝田市	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	常陸太田市	〃
四	三	二	一	五	四	三	二	一	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	九

248	247	246	245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	22
片田 光男	長谷川武男	篠原 一夫	久保田幸寿	関谷 仁	渡辺 茂昌	清水 季	関 明治	河村 正夫	川俣 彦三	林 欽一	渡辺 瑞穂	来栖 兼次	鈴木 学	布施 和一	村山 健司	小沢 実	大友喜八郎	立原 庄作	和田 慶久	青山 惣市	佐川誠太郎
〃	小川町	〃	〃	茨城市	〃	常澄村	〃	〃	〃	〃	〃	笠間市	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	北茨城市	〃
二	一	三	二	一	二	一	六	五	四	三	二	一	八	七	六	五	四	三	二	一	五

270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	249
大川 昇	増田福太郎	田口 英雄	高橋 忠衛	磯崎 つぎ	谷村 きよ	和田幸之助	川崎金太郎	伴田寅次郎	宮本 きみ	安蔵 仲子	溝口 邦男	大川 りよ	石崎 勇	滝田 次男	関 倉寿	鯉淵 広四	川又 次男	江幡 博	島田 信光	古谷 栄雄	長島 豊
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	大洗町	〃	御前山村	桂 村	〃	常北町	内原村	〃	美野里村	〃
一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	一	一	二	一	一	二	一	三
292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271
堀江 正雄	金子 敬	大内 謙	市野沢 昇	飯田 正男	篠田亀之介	寺門 勝美	松本 昭	高畠 清	井上 貢	笹島 弘	佐藤 利彦	礪山与志美	飯村 祥	片野 正己	飯村 義美	菅谷 孝雄	海老沢 保	海老沢好隆	萩原 昭一	小松崎正助	佐藤 欽一
〃	山方町	〃	〃	〃	大宮町	瓜連町	〃	〃	〃	那珂町	東海村	〃	〃	岩瀬町	七会村	〃	〃	岩間町	〃	〃	友部町
二	一	四	三	二	一	一	四	三	二	一	一	三	二	一	一	三	二	一	三	二	一
314	313	312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293
白井 明	長峰 昇	富口 勝芳	田口 佳年	小沼 可吉	米川 伍	根本 統陽	梶井榮次郎	江尻 置	菊池 勉	長山 久夫	鈴木 恭順	大金 彦孜	益子 清次	佐藤 重忠	石井 久雄	小林 二郎	菊地 覚	飛田 義男	川又 博	内田 喜富	大金 登美
〃	〃	銚田町	〃	〃	旭 村	十王町	〃	〃	〃	〃	〃	〃	大子町	〃	里美村	〃	水府村	〃	金砂郷村	緒川村	和美村
三	二	一	三	二	一	一	七	六	五	四	三	二	一	二	一	二	一	二	一	一	一
336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315
佐々木英夫	安藤 雄司	花塚平一郎	遠藤太一郎	増田 泰晴	遠藤 和喜	鈴木 静子	日向美代子	合田嘉久五郎	沼田 清	石神 守	山本 正時	君和田五郎	青塚 一郎	石津 豊	古川義四郎	森木彌一郎	堺田 寅松	村山 義雄	宮崎 文夫	日向寺徳松	飯島喜代作
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	波崎町	〃	〃	神栖村	〃	〃	〃	〃	鹿島町	〃	〃	大野村	〃	大洋村
九	八	七	六	五	四	三	二	一	三	二	一	五	四	三	二	一	三	二	一	二	一

358	357	356	355	354	353	352	351	350	349	348	347	346	345	344	343	342	341	340	339	338	337
手塚 平蔵	浅尾 誠	西村 元一	若栗 弘至	関口 安夫	大和田義雄	照山 彊	野友 衛	本戸 賢一	兼平 保	草野 惣司	高須三千雄	北瓜 政次	須田益太郎	森内 政	箕輪徳次郎	小牧 康照	平山藤一郎	永作 惣七	篠塚 宗司	荒木 正道	市原 巖
阿見町	美浦村	//	江戸崎町	//	//	玉造町	//	北浦村	//	//	//	//	潮来町	牛堀町	//	//	//	//	麻生町	//	//
一	一	二	一	三	二	一	二	一	五	四	三	二	一	一	五	四	三	二	一	一	一〇

380	379	378	377	397	375	374	373	372	371	370	369	368	367	366	365	364	363	362	361	360	359
久野 正一	石田 良雄	萩原 勇	土師 彦雄	藤岡 忠	塩谷 房次	川井 林平	高橋専之助	室町 国利	中村 忠男	根本 喜啓	藤井 孝雄	齊藤 晃	大野 佐門	並木 豊作	関川 馨	高塚 謙司	根本不二松	椎名茂一郎	飯岡宗次郎	石川 玄蔵	佐藤 逞男
//	新治村	千代田村	//	//	//	//	八郷町	玉里村	//	//	//	出島村	//	東村	河内村	桜川村	新利根村	//	牛久町	荃崎村	//
二	一	一	五	四	三	二	一	一	四	三	二	一	二	一	一	一	一	二	一	一	二

402	401	400	399	398	397	396	395	394	393	392	391	390	389	388	387	386	385	384	383	382	381
飯泉正一郎	山田惣太郎	猪尾 善一	大里田鶴子	渡辺 武雄	小口 正作	山口 昌三	大和田利吉	鈴木 武夫	柳町 清	江戸 房吉	桂 晃	金井銀四郎	沼尻 玉子	大木 一郎	鈴木 章	安田 巖助	村岡日出夫	直井 武夫	入江 五郎	宇津野俊夫	吉田トシ子
//	//	真壁町	//	明野町	//	//	関城町	//	大穂町	//	//	//	//	筑波町	//	豊里町	谷和原村	伊奈村	//	谷田部町	桜村
三	二	一	二	一	三	二	一	二	一	五	四	三	二	一	二	一	一	一	二	一	一

424	423	422	421	420	419	418	417	416	415	414	413	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403
草間 七郎	秋葉幸右衛門	塚本督一郎	倉田 守平	小林貞三郎	鈴木 聡一	柴子 明	吉原 剛	飯塚 隆司	高野 静	小田部武治	内海 清	黒川 竹雄	照内栄三郎	広瀬 正	清水 岩	池田 時市	吉原 三郎	笠野 誠一	皆川 一治	保科 元一	山中 博
//	//	//	//	//	//	石下町	//	//	千代川村	//	//	//	八千代村	//	協和村	大和村	//	//	//	//	//
七	六	五	四	三	二	一	三	二	一	四	三	二	一	二	一	一	八	七	六	五	四

茨城県内水面漁場管理委員会委員

425	長浜 武雄	総和村	一
429	山中 昭司	〃	二
427	落合 金吾	〃	三
428	関 正明	五霞村	一
429	古田晋一郎	三和村	一
430	麻生 勇	〃	二
431	生井小一郎	猿島町	一
432	島田儀一郎	〃	二
433	増田 由藏	〃	三
434	中村 秀夫	岩井町	一
435	新里登志一	〃	二
436	羽富勝四郎	〃	三
437	富山林次郎	〃	四
438	倉持 侑巧	〃	五
439	藤井 昭夫	〃	六
440	木村 辰雄	〃	七
441	小林 保境	町	一
442	中島幸二郎	〃	二
443	佐野 貞雄	〃	三
444	赤岩章三郎	〃	四
445	平川 清一	〃	五
446	石山 真道	〃	六
447	宇佐見 武	守谷町	一
448	地引 竹司	〃	二
449	根本健次郎	取手町	一
450	中山宗四郎	〃	二
451	佐藤 信吾	〃	三
452	川田とし子	〃	四
453	林 悦子	〃	五
454	黒沼 幸子	藤代町	一
455	小西 繁夫	〃	二
456	加藤美智子	利根町	一

◎茨城県内水面漁場管理委員会委員の選任

漁業法第三百三十一條第二項の規定に基き茨城県内水面漁場管理委員会の委員を次のとおり選任した。

昭和三十三年十二月十日

茨城県知事

友 末 洋 治

◎建築許可に関する聴聞

建築法第五十四條第一項の規定に基き左記のとおり聴聞を行います。

昭和三十三年十二月十日

茨城県知事 友 末 洋 治

聴聞期日	昭和三十三年十二月十九日午後二時
聴聞場所	日立市堀米下原町三の五
聴聞事項	商業地域内において左の建築物の許可に関すること。 一〇〇立をこえる第一石油類の地下貯蔵

申請者住所氏名 東京都豊島区高田南町三の八二一

株 木 や よ

建築物構造規模 木造平家建鉄板葺二一・二四坪新築

石油類 高級ガソリン 一四、〇〇〇立
軽油 普通ガソリン 一六、〇〇〇立

地下貯蔵

建築物の位置 日立市堀米下原町三の五

敷地面積 五四・二坪

毎週月・水・金曜日発行 (緊急事項は号外発行) (休日の場合は繰下ぐ)

(定価送料共一ヶ月) (金 百 円)

茨城県水戸市北三ノ丸二一九番地 発行所 茨 城 県

印刷所 茨城県 印刷所